

昭和医科大学鳥山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕病院長 真田 建史

〔編集責任者〕広報委員長 真田 建史

〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北鳥山6-11-11

〔電話〕03-3300-5231(代表)

第217号

〔2025年9月1日〕

令和7年度鳥山病院ワークショップ

令和7年7月25日(金)・26日(土)に昭和医科大学富士吉田校舎にて、鳥山病院ワークショップを開催しました。

今年度のワークショップテーマである「特色ある外来の設置について」を総勢33名で議論を行いました。この議論を活かし、患者さんにより良い診療を実施できるように努力してまいります。今後ともよろしくお願いたします。



ワークショップ参加者 全体写真



グループワークの様子



富士吉田校舎 足湯で一休み



全体討論の様子

参加者の感想

作業療法士 川畑 氏

7月25日・26日に富士吉田キャンパスにて鳥山病院ワークショップが開催されました。学生時代以来10数年振りの富士吉田でした。当時私が生活していた寮はなくなりましたが新しい施設もあり、少し寂しくも発展を嬉しく思いました。ワークショップでは普段交流のなかった方々と同じグループで、与えられたテーマについてディスカッションしました。部署・職種を超えた意見交換ができた非常に有意義な会であり、対話をすることで新たな発見やアイデアが生まれることを改めて体感しました。今回の繋がりを活かしこれからも連携を取りながら、よりよい鳥山病院にしていきたいと思っております。

事務員 大野 氏

今回、富士吉田キャンパスでの病院ワークショップに参加させていただきました。富士吉田でのワークショップで感じたのは、病院の会議室で意見を出し合うよりも、柔軟で自由な発想が提案・議論されていたことです。私がメンバーになったC班では、「地域交流」が緊急度・重要度が高いこととして挙げられたのですが、その方法の一つとして「ヤギや羊、うさぎに触れ合えるアニマルセラピーを開く」という意見があがり、1日目の討議では本題より盛り上がる場面がありましたが、おかげで終始楽しみながら、良い雰囲気です討議をする事ができました。今後は院内学会に向けて、できることを1つずつ実現していきたいと思います。

看護師 中山 氏

今回初めて病院ワークショップに参加させてもらい、大変良い経験となり嬉しく思っています。短い期間ではありましたが、グループワークならびに生活を共にすることにより、普段関わりが乏しいスタッフと交流ができる事がこのワークショップの最大のメリットだと感じました。特にワークにおいては看護スタッフ以外の知見が新鮮であり、日々病棟内でもこのようなディスカッションが出来ると良いなあ...としみじみ感じました。今回得た横の繋がりを、ここぞとばかりに今後の業務で活かしたいところです！

作業療法 (OT) プログラムの紹介

作業療法士 長谷川 仁美

8月14日木曜日に高齢者作業療法プログラム（以下、高齢者OT）にて、患者さんにかき氷を提供しました。当日は、患者さんに予告せず、サプライズで提供しました。提供する時間になると、顔色を変えて喜ぶ患者さんの姿が印象的でした。また、「いつぶりに食べたかしらね。分からないくらい久しぶりだわ。嬉しい。」「味覚障害があつて味は分かりにくいけど、氷のふわふわ感とほんのり感じる甘みが味わえてうれしい。」など患者さん同士で感想を共有していました。さらに、2杯食べる患者さんもいて、想像を超える患者さんの笑顔と喜びを見ることができ、スタッフまで嬉しくなりました。

高齢者OTとは、全病棟の高齢者を対象としたプログラムになっています。普段は、作業療法室にて、物作りや楽器演奏など各々が本人らしさを発揮できるような活動に取り組んでいます。今回は、特別企画として「夏の風物詩を味わおう」という事でかき氷を提供しました。入院生活中だと中々味わえない季節感を得ることができ、イベントを開催することで、気分安定や楽しみの獲得に繋がると考えます。今後もOTでは、プログラムや様々な取り組みができるように精進してまいります。



令和7年度防火・避難訓練を実施

事務課

令和7年度8月7日（木）に当院にて、防火・避難訓練を実施しました。成城消防署の立ち会い指導のもと、火災を想定した、避難誘導訓練と、消火器を使用した消火訓練を実施しました。病院職員だけでなく、入院している患者さんにも参加してもらい、実際の避難経路での避難の体験をしてもらいました。今後も、患者さんの皆さんが安心して治療を受けられるように訓練を重ねて参ります。



患者さん訓練参加の様子



消火器での消火訓練の様子



本部訓練の様子

コラム連載（第2回）

こちらは、当院で働く様々な職種の方に、当院にまつわるお話や、メンタルヘルスに関することなど幅広い形で情報提供をさせていただく企画です。第2回は、当院看護部次長である、松本文栄次長に執筆してもらいました。

烏山病院に赴任して感じた事・精神科看護で大切にしている事

昭和医科大学烏山病院 看護部 次長 まつもと ふみえ 松本 文栄

私の看護学生時代の記憶を辿ってみました。千歳烏山駅から商店街を通り、甲州街道を渡った先に昭和大学附属烏山病院（現：昭和医科大学烏山病院）の門がありました。現在はタワーマンションが建っています。烏山病院の門をくぐり、木造2階建の病院（記憶が薄いのでちょっとちがっているかも）の脇を通り、時々患者さんたちが野球をしているグラウンドを抜けたところに我が母校である看護学校がありました。現在は、その建物はありません。昔は敷地が、コンクリートの塀に囲まれていましたが、春はグラウンド周囲の桜並木がきれいだったことを思い出します。

第一看護学科・第二看護学科に加えて看護学科が設立されて2年間並走したあと、第一と第二看護学科は幕を閉じました。看護学校の歴史のバトンを渡すように卒業したことを覚えています。変わったことと言えば、当たり前ですが病院の建物も木造からコンクリートへ、鉄格子の窓はなく、畳の大部屋もありません。今も昔も変わっていないのは烏山病院で働く職員が、生きづらさを感じている患者さんに寄り添う気持ちです。烏山病院の看護師は、一人一人の人間を大切に、対話をしながら患者さんに寄り添い続けます。これから先も。

デイケア活動

(M.S)さん

私は、毎週木曜日にサーズデイというプログラムに参加しています。

サーズデイのプログラムは午前中にデイルームで行っています。

プログラム内容は、一分間スピーチ（一週間の間に行ったこと、印象に残ったことの発表）とプログラム当日の調子・感情（体調やメンタル）の確認を行っています。

その後は、ディスカッションやレクリエーションを行っています。以前行ったことは、熱中症対策、話しかけるタイミングを判断するための話し合いやサーズデイに安心して参加するためのルール決めを行いました。また、レクリエーションでは大好きマップ作りやサーズデイで使うカードの作成を行いました。

私は自分のことをうまく話すことが苦手でしたが、このプログラムに参加してから周りとのコミュニケーションを図ろうという気持ちが少しずつ芽生え、以前よりも周りの人に自分のことを話すようになりました。これからも自分のペースで周りの皆とのコミュニケーションを取っていきたいです。



《 7 月 》 入院(前月) 外来(前月)

◆延患者数	8,706(8,573)	6,904(6,316)
◇一日平均患者数	280.8(285.8)	265.5(252.6)
◆診療実日数	31(30)	26(25)

総合サポートセンター ～受診・入院のご相談～

診察時間：月曜日～土曜日 8時30分～17時

電話：月曜日～土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日 8時30分～14時

◎休診日：日祭日・本学創立記念日・年末年始



広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。こちら鳥山病院のホームページのQRコードとなります。ぜひご覧ください。



鳥山病院精神医学講座Instagramが開設されました。随時情報を発信していきますので、どうぞよろしくお願いたします。



【編集後記】

今年の夏は「危険な暑さ」という言葉をニュースで多く見かける季節となりました。9月に入り、暑さも和らいだ頃でしょうか。9月の代表的な和風月名は「長月（ながつき）」です。長月は、古くから“夜長月（よながつき）”が略されたものだといわれてきました。9月となれば、ずいぶん日の入りが早くなり、夜が長いと感じるようになります。そこから「夜長月」と呼ぶようになり、縮まって“長月”になったということです。夕方、外に出ると、「暗くなったな〜」といひ眩いてしまいますよね。夏の過ぎ去りを感じる一瞬なのではないでしょうか。

一方で、季節の変わり目は体調が崩れやすいと言われています。秋の訪れを感じつつ、お身体にはお気をつけてお過ごしください。広報委員 長谷川 仁美

